

RI 第 2 6 1 0 地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2008-09年度 No.14 10月8日発行

事務局 〒932-0211 富山県砺波市庄川町示野 121 リプロ内

TEL&FAX 0763-82-4318、[inashorc@athena.ocn.ne.jp](mailto:inashorc@athena.ocn.ne.jp)

2008-09年度 会長 小西 勝、幹事 高瀬 顕正

2008-09年度 RI テーマ



「夢をかたちに」

(李東建会長)

例会記録「職業奉仕月間にちなんで」

『細川 毅 木工芸展』鑑賞会



用  
の  
美

細川毅 木工芸展

2008年  
9月20日(土) - 10月19日(日)

開館時間 午前9時～午後6時(入館は午後5時まで)  
休館日 火曜日(但し9/23は開館)、9/24(水)  
入館料 一般・大学生 400円(320円)  
小中高生 200円(160円)  
※1) 90歳以上は200円(160円)の減額料あり、65歳以上の若くは障害者(介護者7名まで)は50%の減額料あり

【開催の場へ】  
●マリンパ演奏 横倉久美子氏 と き/9月28日(日) 午前10時～  
●ギヤラトーク 細川 毅氏 と ころ/庄川美術館 企画展示室

主催/庄川美術館・北日本新聞社  
協賛/日本工芸会富山支部・常陸赤松町教育委員会・富山県産業振興センター・フェアエムと友会

富山県立美術館 庄川美術館 Shogawa Memorial Museum of Sotojiro Matsumura 〒932-0200 富山県砺波市示野1099 1111 932-0200  
TEL FAX 0763-82-3272

## 第1443回例会

平成20年10月1日(水)

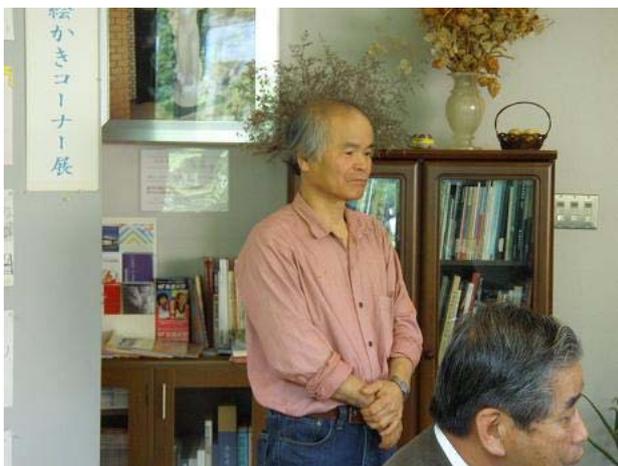
1. 会食 庄川水記念公園「ふなの里」



「ふなの里」にて会食

2. 例会 松村外次郎記念庄川美術館

3. ゲスト紹介：細川毅氏(木工芸家) 紹介者：川那辺利一会員



4. 会長の時間…「本日は久しぶりに庄川美術館に来ました。細川様、本日は解説をよろしくお願ひします。それから、斉藤彰エレクトには、久しぶりに顔を見せていただき嬉しく思います。まだ、療養中ですが、この後、快復されて出席を楽しみにしております。」



5. 幹事報告…「来週の夜間例会で、理事会や月初めのお祝いをいたします。」
6. 委員会報告…①親睦委員会(代理：上田会員)秋の家族旅行は、10月29日予定です。場所はいくつか候補をあげてあります。次週、検討します。②出席委員会(代理):25名中18名出席(出席免除者7名中5名出席)・・・出席率78.26%
7. その他…①福嶋会員：11月8-9日、ヘリオスで展示会をします。お時間ある方は是非お立ち寄り下さい。②山本会員：「いい歯の日キャンペーン」はことしは11月8日が、土曜日で保育園など施設関係が休みになります。それで、原点に戻って、ショッピングセンター・アミューで、キャンペーン活動を行います。本日のように、例会変更して行い、昼食も用意する予定です。是非、ご出席下さい。
8. 卓話・木工芸展解説 細川毅氏



(庄川美術館パンフより)

細川毅（南砺市城端在住）は、挽物技術を駆使して、木の素材を活かすデザインと技法で木工芸の創作活動に励んできた木芸家です。氏は昭和 31 年、15 歳で挽物の修業に入り、35 歳で独立し、昭和 55 年に日本伝統工芸展で初入選を果たしました。以来、日本伝統工芸展を作品発表の場に活動しています。また、地域の美術協会長として境界の発展に取り組んでいます。

本展は氏の挽物技術を主体とした木目の美しい木工芸品を展示し、細川毅の世界を紹介します。



**細川氏**：私は、現在、桑や栃、樺を主として使っていますが、時々、鉄刀（タガヤサン）・黒檀や神代樺を使います。作品としては、盛器、盛盆、盛鉢、蓋物、三段重、籠、菓子皿、茶托など、日常使ってもらえるものを作っています。漆を塗るのに、湿気がないとかたまらないその性質を利用しながら作っていきます。私の作品は、製作前に、材料を漆に付けておき、固いと所は白く、柔らかいところは黒く染まるので、それを磨き上げてこの縞々の素晴らしい色合いや木目模様を引き出します。

(編集後記)

本日のゲストは、木工芸家の細川毅さんでした。挽物は、庄川が本場で、樺のお盆は、木地そのままを使い出しても、使っていくうちにいい色になって、お盆としての価値が高くなるのだということも昔の人はよく言われました。細川さんの作品は、木がこんなにも深みのある色が出るのかというくらいに、濃淡がはっきりとついて、木目の美しさが、引き出されている素晴らしいものでした。ローマでは石の文化を感じてきましたが、やはり日本は木の文化です。木のいろいろな器は、本当に温かみがあると感じました。ガラスや陶器では味わえないものです。漆といえば、昔、祖父が、新築して 7・8 年の家の柱に、何回も季節を考えて、塗り足していたことを思い出します。何層にも重ねて、今のいい色をした柱があるのかと、実感しました。

また、本日は、細川さんの作品の素材で、懐かしい記憶がよみがえりました。南洋の木で、紫檀・黒檀は水よりも重い木で、亡き父が、トラック島の形見をもって帰ったのが、紫檀の箸箱と箸でした。今回、タガヤサンという名前をうろ覚えに聞いていたのですが、この木も水よりも重い木で、「鉄刀」と字を当てるとは、知りもせず、大変いい勉強になりました。

ところで、今回は、例会時に久しぶりに外で会食しました。時間的に余裕が少し余裕があれば、このような形もいいのかなと感じ、こんどの「いい歯の日キャンペーン」も食事の機会を準備して、会員皆さんのご協力を仰げればいいなあと考えております。また、よろしく願いいたします。

斉藤彰さんも、ようやく快方に向かわれて、今回、久しぶりに皆さんの前に顔を見せられました。大変、嬉しく思いました。 (山本武夫)